

舗装を有する箱桁の動的応答解析

岩手大学工学部 正員 ○岩崎 正二
 岩手大学工学部 正員 嵯峨 耕咲

1. まえがき

近年橋梁構造において、舗装体を考慮した梁や鋼床版の理論的、実験的研究が盛んに行なわれるようになってきた。本論文では舗装を有する箱桁の上フランジ中央部を単一集中荷重が一定速度で走行する場合を、上フランジ部分を二層板、下フランジ・ウェブ部分を鋼板の帯板要素と考え、モード解析法により動的応答解析を行ない、舗装体の変形係数、厚さなどの変化が箱桁の動的応答性状にどのような影響を与えるかを検討したものである。

2 解析理論

図-1 に示す二層板帯板要素において、 x, y, z 方向変位を u, v, w 、回転角を θ とし変位関数をつぎのように仮定する。

$$\left. \begin{aligned} u &= u^{(1)} u_i + u^{(2)} u_j, & v &= v^{(1)} v_i + v^{(2)} v_j \\ w &= w^{(1)} w_i + w^{(2)} \theta_i + w^{(3)} w_j + w^{(4)} \theta_j \end{aligned} \right\} \quad (1)$$

ここで $[u^{(1)}, u^{(2)}] = [v^{(1)}, v^{(2)}] = [1 - \eta, \eta]$

$[w^{(1)}, w^{(2)}, w^{(3)}, w^{(4)}] = [1 - 3\eta^2 + 2\eta^3, b(\eta - 2\eta^2 + \eta^3), 3\eta^2 - 2\eta^3, b(-\eta^2 + \eta^3)]$,

$\eta = \frac{y}{b}$ 、サフィクス i, j はそれぞれ $y=0, y=b$ 点での境界物理量を表わす。

x, y, z 軸方向の動的基礎微分方程式に上述の試験関数を用いてカラーキン法を適用すると

$$\int_0^b \left\{ \frac{\partial S_x}{\partial x} + \frac{\partial T_{xy}}{\partial y} - (\rho h)^* \frac{\partial^2 u}{\partial t^2} \right\} u^{(k)} dy = 0 \quad (2) \quad \int_0^b \left\{ \frac{\partial S_y}{\partial y} + \frac{\partial T_{xy}}{\partial x} - (\rho h)^* \frac{\partial^2 v}{\partial t^2} \right\} v^{(k)} dy = 0 \quad (3)$$

($k=1, 2$)

$$\int_0^b \left\{ \frac{\partial M_x}{\partial x} + 2 \frac{\partial M_{xy}}{\partial y} + \frac{\partial M_y}{\partial y} - (\rho h)^* \frac{\partial^2 w}{\partial t^2} \right\} w^{(k)} dy = 0 \quad (k=1, 2, 3, 4) \quad (4)$$

ここで S_x, S_y は二次元応力問題における垂直応力、 T_{xy} はせん断応力である。 M_x, M_y は y 軸、 x 軸まわりの曲げモーメント、 M_{xy} はねじりモーメントである。 ρ と h は密度と厚さであり、 $(\rho h)^* = \rho_1 h_1 + \rho_2 h_2$ である。

面内変形に関する応力-ひずみ関係式と面外変形に関する断面力と曲率の関係式は

$$\left. \begin{aligned} S_x &= N^* \frac{\partial u}{\partial x} + N_u^* \frac{\partial v}{\partial y} \\ S_y &= N^* \frac{\partial v}{\partial y} + N_u^* \frac{\partial u}{\partial x} \\ T_{xy} &= (Gh)^* \left(\frac{\partial u}{\partial y} + \frac{\partial v}{\partial x} \right) \end{aligned} \right\} \quad (5) \quad \left. \begin{aligned} M_x &= - \left(K^* \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + K_u^* \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} \right) \\ M_y &= - \left(K^* \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} + K_u^* \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} \right) \\ M_{xy} &= - \left(K^* - K_u^* \right) \frac{\partial^2 w}{\partial x \partial y} \end{aligned} \right\} \quad (6)$$

ここで N^*, K^* は二層板の伸び剛性及び曲げ剛性を表わす。又 $(Gh)^* = G_1 h_1 + G_2 h_2$ 。

式(5)を式(2)、(3)に、式(6)を式(4)に代入し部分積分を施すと x に関して4階、 t に関しては2階の線形連立微分方程式が得られる。式(2)から得られる方程式には $\cos \frac{\omega}{c} x$ 、他式から得られる式に $\sin \frac{\omega}{c} x$ を乗じ $0 \leq x \leq l$ で有限フーリエ変換を施し、境界条件に留意して整理すると次のような二層板帯板要素の動的基本式が求まる。

$$[K] \{ \bar{S}_m(\delta) \} + [M] \frac{d^2}{dt^2} \{ \bar{S}_m(\delta) \} = \{ \bar{S}_m(f) \} \quad (7)$$

ここで $\{ \bar{S}_m(\delta) \}, \{ \bar{S}_m(f) \}$ はそれぞれ境界節点変位、節点断面力ベクトルの像関数であり次のように表わされる。

$$\begin{aligned} \{ \bar{S}_m(\delta) \} &= [C_m[u_i], S_m[v_i], S_m[w_i], S_m[\theta_i], C_m[u_j], S_m[v_j], S_m[w_j], S_m[\theta_j]]^T \\ \{ \bar{S}_m(f) \} &= [C_m[T_i], S_m[S_i], S_m[Q_i], S_m[M_i], C_m[T_j], S_m[S_j], S_m[Q_j], S_m[M_j]]^T \end{aligned}$$

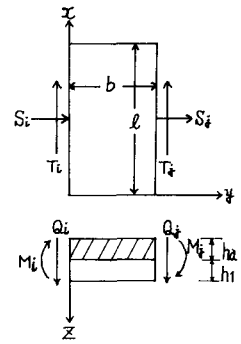


図-1 二層板要素

